

Pick

## 輝く男性の家事・子育て体験記

## 3か月の育児休業を取得して

団体職員 T. T

子どもが2018年6月に生まれ、その後、妻が6カ月間の育休を取りました。私が育休を取ったのは、2019年1月から3月末までの3か月間です。妻と子どもと3人でという期間もはじめの半月ぐらいありましたが、その後は、子どもと2人でという生活でした。

育休に入る前から家事は、妻と分担していたんですが、子どもと2人の生活になって感じたことは、毎日が単調ながら忙しいこと、日々があっという間に過ぎていくことです。

妻が出勤する日はほぼ毎日同じスケジュールで進みます。食事の準備、片付け、掃除、洗濯、子どもにミルクをあげて、遊んで、寝かしつけ。その間に入ってくるおむつ替え。私が育休に入った頃は、まだ歩けず、ハイハイもできなかった時期。子どもと遊ぶといっても、絵本を読んだり、抱っこして散歩したり…。

思い違いをしていたのは、子どもを寝かしつけた後の時間。例えば、本を読むとか、自分の時間にも使えるかなと思っていたんですが、とんでもない！子どもが寝た後こそが本番。いろいろと動かないといけないことを身をもって実感しました。食事の準備や掃除、洗濯…。なるべく音をたてないように行います。

そんな感じで、変わり映えはないけど結構忙しく、日々はどんどん過ぎていきます。そして、日中、子どもと2人きりの時間の中で感じる孤独感、世間から取り残された感も、わずかながら、ふとした瞬間に感じるがありました…。

そんな時に頼りになったのが、祖父母の存在でした。私にとっては、少しでも自分の時間が取れる、子どもにとってはいつもと違う顔に遊んでもらえる、祖父母にとっても、かわいい孫に会うことができる。付け加えると、自分にとっても、祖父母と子育てについて話ができるよい時間になったと思います。

育児をすることで、誰かに頼ることの大切さも感じました。男性、女性に限らず、子育てを抱え込まないこと。抱え込んでしまうと不安や不満などの負の感情が子どもに向いてしまいます。私の場合は妻以外には、主に祖父母を頼っていましたが、それが友達でも良いし、どこかの機関でも、何かの集まりでも良い。どこかに頼ることができたり、「気が休まる場所」があるということは大切だと感じました。

育休中の単調な毎日の中にも、もちろん、たくさんの驚きや喜びはありました。初めて寝返りできるようになったのも、初めてハイハイらしきものをしたのも、最初に見たのは私でした。昼寝をしているとき、何か良い夢を見ているんでしょうか、笑っているのを見て、幸



せな気持ちになったことも覚えています。子どもの成長を日々感じられる、そして、子どもと一緒に時間を共有することで一緒に幸せを感じられる、そんなことが育休を取ることの重要な意味であると思いました。

子どもの成長は早いものです。今ではしっかり歩いて、よくわからないことをしゃべるようになり、いろんなものに興味を示すようになりました。元気に保育園にも通っています。私の方が仕事から早く帰ることが多いため、食事は主に私が作っています。特にそうしようと決めたわけではないですが、食べさせるのは妻で、片付けは私がやっています。寝かしつけは私がやり、保育園の送り迎えや翌日の準備などは妻がやっています。子どもが、今日はお母さんじゃないと嫌だとか、今日はお父さんの方が良いという日もありますが（若干お母さんの方が多いですが）、協力しながらそれぞれができるときにできることをやっています。これからも、「お父さんの役目はなに」、「お母さんの役割はなに」と考えるのではなく、どちらもが主体的に家事や子育てに向き合っていけたらと考えています。そして、子どもにはそんな姿を見せながら、成長していつてもらいたいと思っています。

